

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H34）

市町名：竹原市

1 要旨

竹原市の森づくり事業（交付金事業）を実施するにあたり、「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ、竹原市の里山を取り巻く現状と課題を念頭に第3期の推進方針を定め、これに基づいて森林のもつ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

2 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全林	竹林等の繁茂が竹原市全域でみられ美しい景観を維持しにくい状況である。	竹林は成長が速いため定期的持続的な管理が課題となる。しかし地域全体の高齢化が進み後継者が少ない現状である。	竹林は竹原市の観光資源でもあり、竹林整備を行うと共に新しい後継者の確保・育成に取り組み美しい竹林を目指す。	公共施設など集客力のある場所から重点的に実施する。 伐採した竹を地元のイベントで使うなど竹に興味関心を持ってもらう活動を行う。
防災・減災林	竹原市は急傾斜地崩壊危険区域・土砂災害警戒区域が非常に多く、その箇所において森林整備が不十分な状況である。	竹原市の人口減少や高齢化により森林整備をする人口も減少しており、危険箇所の持続的な森林整備をすることが課題となっている。	森林整備の担い手の確保・育成に取り組み災害に強い里山を目指す。	急傾斜地崩壊危険区域・土砂災害警戒区域に指定されている場所で人の往来が多い場所や公共施設が近くにある場所を優先的に整備する。
鳥獣被害防止林	シカ・イノシシの人里での活動が増加し被害が拡大している。	竹原市全体でシカ・イノシシの被害があり、対策が追い付いておらず、野生動物との共生を目指す里山整備が課題となっている。	人と野生動物の緩衝機能を持つ里山を整備し共生できる環境を目指す。	農業に積極的であり、持続的に森林管理をしてもらえる地域を優先にバッファゾーンの整備を行う。

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

3 森林を守り育てるための取り組み

区分	現状と課題	目指す姿	取組む内容
<p>森林を守り育てる体制</p> <p>森林整備を行う者 (森林ボランティア団体) 1団体 特定非営利団体活動法人ネットワーク竹原</p> <p>(住民団体等) 2団体 竹原山岳会 賀茂川の源流を守るネットワークにか</p> <p>森林整備を助ける体制 (森林資源の継続的利用)</p>	<p>・森林ボランティア団体・住民団体は共に活動している団体が減少している。竹原市の人口減少及び高齢化による活動団体の後継者不足が原因である。【ボランティア団体・住民団体】</p> <p>・ボランティア団体・住民団体が主催する、木材や竹で小物を作成する体験会で使用されている。ボランティア団体・住民団体の減少により森林資源の継続的利用は難しい状況である。</p>	<p>・若年層の後継者の確保・育成し、活気のある活動団体が市内全域に点在し森林保全活動と通じて地域活性化に貢献している。</p> <p>・ボランティア団体・住民団体の後継者の確保・育成・新規団体の設立を目指すとともに、森林・林業を関係する職業に従事する人を増やし森林資源の継続的利用を目指す。</p>	<p>・現在活動している団体について後継者の確保・育成を図る。また、体験活動を通じて森林保全活動への関心を高め、新規団体の発足を図る。【ボランティア団体・住民団体】</p> <p>・森林・林業体験活動支援事業により、小学校等公共施設を中心に体験会を開催し、簡単な木材加工品を作ることで森林資源の活用について、興味・関心を持ってもらう。</p>
<p>取組への理解促進</p> <p>参加拡大による理解促進</p> <p>事業の理解</p>	<p>・ひろしま森づくり県民税による事業内容・事業実績の周知が不十分であり、市民の理解が乏しい状態である。</p>	<p>・市民がひろしま森づくり事業の内容・事業実績の理解している。ひろしま森づくり事業に関する要望が市民から自然にあがってくる。</p>	<p>・市広報誌・ホームページを活用し広く情報を発信する。</p> <p>・事業を実施した地区の自治会に事業報告を行う。</p> <p>・ひろしま森づくり事業で伐採したものを体験活動・イベントで使用し、このことで伐採したとわかるように広報誌等に掲載する。</p>